

中原区マップ



中原区の歴史

時代・年代	主なできごと	その頃の日本では
中原の黎明期	区の南側海抜40mあまの丘陵部に、井田山から始まる神庭、井田伊勢台、井田中原の遺跡群あり(縄文・古墳)	大和國家の統一進む
5世紀	上九子、黄金塚、春日神社境内に古墳が築かれる	710年平城京に遷都、741年国分寺建立の詔
8世紀	『日本書紀』の安閑天皇の案に、橘花の地が朝廷の直轄地である屯倉(ミクラ)として記される	『万葉集』の防人歌、正倉院寶物の白布に橘園部職が記される【多摩川(たまたかは)に さらす手作り さらすに】橘園の部名は昭和まで引き継がれ地域包括する
10世紀	『倭名類聚抄』に橘園部全5郷が記される	
12世紀	中原区一帯は稲毛庄と呼ばれる(藤原親康家の荘園)	
1171年	「稲毛本庄検注目録」に稲毛新庄が記される(現在の新城のあたり)	
1180年	「吾妻鏡」に源頼朝が丸子庄を葛西清重に贈ると記される	1185年平家滅亡
14世紀	「三千年文書」に丸子庄が記される	1392年南北朝の統一
15世紀	行政上の呼び名が稲毛種子郷に移る	
1550年	吉良頼康、泉源寺を現在の小田中へ移す	
1559年	北条氏康の作成した「小田原衆所領目録」に上九子の名が記される	1560年桶狭間の戦い
1604年	中原街道が定められる	1603年徳川家康が征夷大将軍になる
1608年	二代将軍徳川秀忠、小杉に仮御殿を建設する	
1611年	小泉次大夫、二ヶ領用水の工事を完成する	1637年島原の乱
1764年	上九子村の野村文左衛門、中原街道沿いに多くの石橋を架ける(八十八橋)	1782年天明の大飢饉
1871年	廃藩置縣後に多摩郡が神奈川県に属する	1889年大日本帝國憲法公布
1893年	三多摩地方が神奈川県から東京府に移管される	
1916年	アミガサ事件を受け有吉橋が架かる	
1924年	川崎市制施行(人口50,188人 戸数7,796戸)	1923年関東大震災
1925年	中原村と住吉村が合併し、中原町制執行	
1926年	東横線が開通 翌年南武線が開通	
1931年	ガス水道としてガス橋が架けられる	
1933年	中原町が川崎市と合併する 多摩川本堤防が完成し、洪水の不安が消える	
1935年	丸子橋が架けられる	1941年太平洋戦争(～45年)
1945年	川崎大空襲により市街地焼失	1945年ボツダム宣言受諾
1967年	等々力緑地に陸上競技場が完成	1964年東京オリンピック
1972年	政令指定都市になり中原区が誕生	1972年札幌冬季オリンピック
1983年	中原平和公園が開園 総合自治会館が開館	
1988年	市民ミュージアムが開館	
1993年	区のシンボルマークが決まる	
1995年	とどろきアリーナが開館	1995年阪神・淡路大震災
1998年	区の花(パンジー)に決まる	1998年長野冬季オリンピック
2010年	横須賀線武蔵小杉駅開業(3月13日)	
2012年	中原区制40年を迎える。	
2015年	区の花(木)がモミに決まる	

この地図に掲載されている情報は平成29年1月現在のものです。掲載記事の主出典元: わたしたちの中原

中原アラカルト

祭りの地 神庭遺跡 (MAP B-5)

中原区の黎明の地といわれている神庭(かむ)遺跡は、昭和47(1972)年、県立中原養護学校建設の事前調査のときに発掘されました。第一期が縄文時代の中期から後期で、中央部が広場となる馬蹄集落となっています。(約4500年前)

第二期は弥生時代の後期で、多摩川の広大な沖積低地が続き、稲作に適した大きな集落をつくっていました。(約1700～2000年前)

第三期が古墳時代前期で、中頃に急激な集落の減少、一時には途絶えたと考えられています。第四期の有史時代と合わせ、膨大な住居跡が発掘されています。(川崎史)

神庭遺跡で発掘された土器
市民ミュージアム所蔵

全産者とパンジーの供養塔 (MAP B-3)

山室時代の十一面観世音菩薩を本尊とする曹洞宗の寺院で、室町時代後期に開かれた逆登山(おきおさん)常楽寺が前身と伝えられています。

江戸時代の旗本であった小村権大正利(1635～1711)の石の石像(普段は非公開)が保存され、市の重要歴史記念物に指定されています。境内には昭和61(1986)年に神奈川県名産百選に選ばれた「区の花(パンジー)」の記念碑があり、また、付添の農家によって建てられた「花の供養塔」があります。寺院の周りに、昭和51(1976)年市保存樹木として指定を受けたクスノキ・イチヨウ・ケヤキ・シノキが茂っています。(参考文庫 わたしたちの中原・川崎市資料)

小村正利石像(複製非公開)
花の供養塔
区の花(パンジー)の記念碑
全産寺の楼門

春日の森 (MAP C-2)

中原区内で野鳥の楽園と呼ばれている春日の森は春日神社と常楽寺がなります。裏手にはあらゆる草木が生い茂り、市内でも珍しい自然が豊かに残されている場所です。

春日神社の創建時期は、承安元(1171)年と推定され、宮内村の東方高瀬の微高地あり、自然堤防の高地地帯に形成された多摩川の洪水に浸することなく、古い歴史を今も伝えています。

常楽寺は春日山王院と称する「真言宗密山派」の寺院で、奈良時代の聖武天皇の御願所として行基によって開基されたといふ伝承を持つ寺です。昭和43(1968)年の解体修理の際、本堂裏に「マンガ」の絵を描いたことから「マンガ寺」と呼ばれています。県の天然記念物の聖世音菩薩立像が本尊で、市の史跡として指定され、稲毛本庄の中心地であったことが偲ばれる寺です。(参考資料 わたしたちの中原・川崎市史)

常楽寺の先に春日の森を見る
常楽寺の本堂の壁・横に描かれたマンガ

日枝神社 (MAP E-3)

平安時代初期に丸子山王権現として創建、明治時代に日枝神社と改称されました。

市内数多い神社の中でも、近世以来専ら神職が存在している三社一社で、地域の中心的な神社と考えられています。

戦国大名北条氏の虎の印判状2点と本殿は市の重要歴史記念物に指定されています。本殿は、間口三間であることから「三間社流造」と言われ市内唯一のもので、御祭神は、産業の神様、縁結びの神様として広く親しまれている大國主命(おおくにぬしのみこと)で、境内には天正14(1586)年豊臣秀吉が河内日吉大社境内に築いた大神庫の一部、延享8(1680)年の庚申塔、野村文左衛門の八百八橋の遺構の一部が保存されています。

徳川家より御朱印二石を囃り社寺を保護され、1月7日の「オビシャ祭り」には数多くの氏子が集まり、盛大に本年の占いをします。(参考文庫 わたしたちの中原)

落ち葉が散る日枝神社
オビシャ祭の様子

小杉再発見 (MAP E-4)

川崎市中原区の東急東横線、JR南武線武蔵小杉駅周辺の約47ヘクタールに広がる「小杉駅南部地区」「小杉駅東部地区」「中丸子地区」「新丸子3丁目南部地区」「小杉町3丁目中央地区」「小杉町2丁目地区」「小杉町3丁目東部地区」を中心に、2020年までに100メートル以上の超高層マンションが12棟完成し、周辺のマンション住戸も約8400戸が完成し、「新しい街」が誕生しました。

また、近くを通るJR横須賀線の武蔵小杉駅が2010年3月に開業、2019年にはJR南武線の北側に小杉小学校が開校しました。

今後も「武蔵小杉駅北側」にある「小杉町1・2丁目地区」でも工事がさらに進み、等々力緑地や多摩川への玄関口でもあるが生まれ、新たな魅力を備えた街が生まれます。

今後も川崎市内一変貌を遂げる街と言えます。

武蔵小杉駅北口周辺
弘化2(1845)年頃の「小杉村」周辺 多摩市教育委員会所蔵(調布玉川絵巻圖)

二ヶ領用水400年 (MAP D-3)

徳川家康は北条氏討伐の功により、豊臣秀吉より関東へ移封されましたが、戦争で荒廃した地が多く、新田開発が急務となりました。小泉次大夫は、富士宮市小泉郷の出身で、極松家の長男として、養子に入っており、武田政興の功績もあり、徳川家康の家来に迎えられました。極松家では800年前、富士山の噴火に水による大水の氾濫と枯れに苦しめられた地に、用水を引き、農田と伝法の町を潤した功績で、代々種代を務めていました。この水利の技術集団を従えていた次大夫は、家康と共に関東へ入り、二ヶ領用水の開削を進みます。

稲毛と川崎を流れる二ヶ領用水と、多摩川の対岸に田谷と六郷を流れる六郷用水、合わせて二ヶ領用水を完成させた知恵は、800年前の富士山の治水の技に遡るようです。次大夫は二ヶ領用水の中間点である小杉に陣を張り、工事の陣頭指揮にあたり、59歳のときに開削を始め、農作業ができるよう配慮しながら3ヶ月ごとに用水を交互に開削を進め、73歳で完成させました。

豊れ川と言われた多摩川から、豊かな農地を生み出した二ヶ領用水の形に、細長く川崎の地は発展を遂げ、農業用水から生活用水、さらに工業用水へと様々な用途に利用され、今は、美しい桜並木と桃の花の咲く人々の散策路となり、人々の暮らしを彩っています。

なお、二ヶ領用水は、近代から現在に至る川崎発展の歴史を理解する上で意義深いものであることから、令和2年3月に国登録記念物(遺跡関係)として文化財登録されました。

中原の桃 (MAP C-2)

二ヶ領用水のおかげで、中原では質の良い稲毛が採れるようになった。大正の終わりから昭和初期までは、高収入の桃の生産が盛んになりました。三作の麦の青々とした桃先に一面の桃の花咲く様子は、まさに桃源郷の景色でした。当時、中原の桃は6万5千本にもおよび、全国一の生産量を誇っていましたが、太平洋戦争に入ると、資材不足による桃の切り入れ、資材を消費したため、田畑に転換するように指令が出た。市民を中心に二ヶ領用水沿いに桃を植える活動が続いています。

発行: 中原区役所まちづくり推進部地域振興課(令和3年1月) 電話: 044-744-3324
力: なかは20年構想委員会